

税が支える私たちの暮らし

高野陽奈（福島県・白河市立白河第二中学校）

二〇一一年三月十一日午後二時四十六分、東日本大震災が発生した。福島県には大きな被害が及び、私たちは避難を余儀なくされた。

私が住んでいた双葉町というところは、とても海に近かったため被害が大きかった。地震発生からわずか一日程度、翌日十二日の早朝には避難指示が出た。原子力発電所が近く、その避難区域は三キロから五キロ、五キロから十キロ、最終的には三十キロにまで拡大。

当時私は四歳。幼いながらも、いつもと違う大人の騒ぎに恐怖を感じていたのを覚えている。あれから約九年、去年二〇二〇年三月四日、ようやく私も双葉町へ立ち入ることが可能になり、十九日に震災後初めて足を踏み入れた。しかし、私は想像を絶する現状に言葉を失った。見渡す限り更地で、町中に大きな黒い袋がずらりと並んでいた。テレビで見っていた「復興」とはかけ離れていた。

「お母さん、これが復興なの？」

「これでも大分綺麗になったよ。最初は瓦礫とか土砂がすごかったからね。」

それから約一年と四ヶ月「東日本大震災・原子力災害伝承館」というものが出来て、あの時に比べて復興が進んだなと思った。

しかし、復興のためのお金はどこから出ているのだろうか。それが疑問だった。土砂だらけだった土地を綺麗にしたり、私たちの家に届く支援物資だったり…。

今現在、「復興特別所得税」というのがあるのを知った。東日本大震災の復興に用いられるために創られたもので、納税する義務のある人すべてが支払わなければならないのだ。つまり、北海道から沖縄まで、東日本大震災の被害が無い人もこの税を支払っている。それはとても有難く、幸せなことである。

私は「これが果たして復興なのか。」と考えていたことを反省しなければならないと思った。福島県はゆっくりと、でも確実に復興へと進んでいる。こんなにも多くの人の支えや努力があってこそ、私たちが生活できているというのが実感出来た。税金もその一つだった。

私たちの身の周りを見てみると、税金がどれだけ役に立っているか気づかされる。道路や信号などの維持、図書館、病院、公園、私たちが生活する学校、教科書など、どれだけ税金に支えられているかが分かるだろう。

「税金＝負担」と考える人も少なくない。しかし、私たちの豊かな暮らしは税によって支えられていることを知ってほしい。自分が納めた税が誰かの暮らしを幸せにしている。そう考えたら税金の大切さが分かるのではないだろうか。だから私は税金へ感謝しつつ、これからは一人の納税者として暮らしを豊かにしていきたいと思う。